

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100875		
法人名	有限会社 九州松栄産業		
事業所名	黒髪しょうぶ苑 ~ 2F		
所在地	熊本県熊本市中央区黒髪5丁目4番30号		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にあり、住み慣れた場所で暮らす安心感と家族が来やすい立地・雰囲気がある。スタッフによる玄米ニギニギ体操やボランティアの太極拳を定期的実施している。一年を通して利用者に活気をもたらす行事を企画している。又、夏は地域の方々へ夏祭りを実施する等で地域交流に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地にありながら、熊本市民の憩いの場でもある龍田山のふもとに位置しており、利便性と同時に自然にも大変恵まれた環境にあります。また利用者が、いつまでも地域とつながりながら、生活できるように自治会にも入会し、地域との交流に積極的に取り組んでいます。夏祭りや賀寿のお祝いには、自治会長をはじめ、地域の方々がたくさん参加されます。事業所には、自己実現の場として、9つの委員会があります。職員全員がどこかの委員会に属しており、日々、研鑽に努めています。苑の発展・サービスの向上にどこかで寄与しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、適切な個別ケアを実践できるように毎月のミーティングで話し合いをしている。見直しもこまめに行っている。今期のグループ目標を念頭に置き業務を行う。	“私たちは、あなたの気持ちに寄り添い、家族の一員として敬い慈しみ喜怒哀楽をともに感じていきます”という理念を掲げている。理念の共有また実践については、毎日のミーティングで話し合い、確認するようにしている。必要な場合は、個人指導も行っている。	理念やグループホーム目標は、事務所内に掲示しています。利用者や訪問者からも見えるようにホールへの掲示をぜひお願いします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民一斉清掃へ参加し、隣接する道の草取りを行った。近隣へ、夏祭りの開催を知らせるチラシのポスティングを行い、多数の参加を得られた。今年も賀寿のお祝いに、自治会の方々が参加の予定である。	事業所は自治会に入会しており、春・秋に行われる市民一斉清掃に参加している。また、毎年行っている夏祭りには、地域の方々も大勢参加されており、介護相談コーナーなども開設し、気軽に相談に応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等に、介護相談コーナーを設けている。又、最近では少しづつではあるが、通りがかりに相談に来られる方が、増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長様より、福祉面で困っていることを苑に発信し、連携を取りたいとの申し出があり、了承した。3町内で自主防災クラブを立ち上げる予定があり、苑からも参加を求められ登録を予定している。利用者家族へ参加の呼びかけを行っているが、遠慮して参加が少ない。	運営推進会議は奇数月の第4金曜日に行われており、メンバーは自治会長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター職員、それに苑の関係者が出席している。会議では、利用者の状況や事業所の取り組みについて報告し、意見やアドバイスをもらっている。また、メンバーからは独居についての相談があったり、今後発足予定の自主防災クラブについての話し合いも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターより参加してもらい、助言を頂いている。介護相談員の訪問のより、利用者の側面を知ることができる。	運営推進会議への市の担当者の出席は行われていないが、運営上分からない点や、判断に迷うところがあれば、その都度担当部署に電話を入れ、指導を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の定義が広義に及んでいる為に、認識を新たにして、拘束をなくしている。	年に1回は法人で勉強会を行っており、具体的な行為や拘束による弊害等について学んでいる。また、関連書籍も購読しており、職員間で回覧し、スキルアップに努めている。俳諧のある利用者には、早朝からの散歩支援を取り入れている。また、玄関の施錠については、防犯上の観点から夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を設けている。言葉遣いにも細心の注意を払うように、常日頃申し送っている。車椅子の方は椅子への移乗を行い、居室での休憩も設けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで活用された方は居ないが、学ぶ機会はこれからも設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすい言葉で説明するように心がけている。説明後、疑問や不明な点がないかを尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置しているが利用がないので、面会時に近況を伝える中で尋ねている。又、話の中から要望を汲み取っている。年に1回家族会を開催し、職員と家族との話し合いの場を設けている。年1回家族への匿名アンケートを実施。全職員に声を届け、改善に努力している。	年に1回は家族会を開催し、職員と家族との話し合いの場を設けている。匿名でのアンケート調査も実施し、忌憚のない意見の収集に努めている。また、市の介護相談員の受け入れも行っており、利用者本人の声にも耳を傾け、改善に取り組んでいる。さらに第三者苦情処理機関のポスターも掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社員会での決定事項は他の職員へも申し送りを行っている。ミーティングで上がった意見は苑長に報告している。	社員会やミーティングの中で、意見や提案を聞く機会を設けている。また意見の言いやすい環境づくりにも取り組んでいる。これまでに職員の提案で、テーブルの配置を変更したり、浴室に手摺りを付けたり、また、浴槽の中にイスを置くなどの工夫をしている。職員の聞き取りからも、思いを発言できる環境であることが伺えた。	

黒髪しょうぶ苑 ～ 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苑が行っている初任者研修を受講する職員には、割引や分割払い可能などにして、取得を応援している。小さな子供や親の介護をしている職員には、勤務面での配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修・主任者研修を行っている。又苑内研修も各委員会が担当して行っている。苑が主催している資格取得講座を受講するに当たっては、勤務面の配慮や受講料の割引を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に参加している。これからも交流の機会があれば参加をしていく		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人や家族、又 ケアマネよりの情報を集める。情報はスタッフ全員が把握できるように周知を行う。施設に慣れるまでは寄り添い・傾聴する事を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話してもらえる環境を整えている。管理者・リーダーのみならず、なじみのスタッフの存在が必要だと思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、環境変化による戸惑いや不穏が出ることを念頭に置き、統一した対応が出来るようにプラン作りを行う。家族との連絡を密に取る様にしている。必要なサービスは提言していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで、無理強いするのではなく、さりげなく出来ることをしていただきたい。時には利用者の経験や知恵を拝借する事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに家族から相談を受ける事がある。親身に聞くよう心がけ、アドバイスが出来ることはしている。話を聞いてもらえるだけで、楽になりましたと言われることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時には、ゆったりと話ができる場を提供している。入所後も家族と共に行きつけの美容院へ通っている方がいるので、可能な限り続けて頂きたい。年に数回しか面会に来られない方から葉書が来る方には、返信の支援をしている。	現在は、趣味や習い事を継続している利用者はおられないが、入所後も家族と行きつけの美容室に通っている利用者はおられる。事業所としては、馴染みの人との関係継続を支援しており、友人・知人の面会も大いに歓迎しているが、今のところ、家族や孫・ひ孫等の面会が多い様である。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やリビングで過ごされる時の席に気配りをしている。利用者同士で食事に遅れている人を呼びに行く等の思いやりが生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されるに当たって、今後も相談に乗れることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を持ち、それを伝える事が出来る方は少ない。こちらから、外食や外出の計画を立て意向に沿うように努めている。華展が開催されていた時には、こちらから働きかけをして観賞を実現させた。今後も美術館等への外出を計画したい。	日々の係わりの中でのコミュニケーションを大事にし、思いや意向の把握につなげている。例えば、昔の話しや子供の頃の話しを聞く中で、好きだったこと、得意だったこと等、今まで分からなかった利用者の一面を発見することがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートご家族・ご本人の話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り本人の意思で日中を過ごして頂いているが、動き・表情の観察を行っている。夜間帯は2時間置きに巡視を行い、変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月毎に評価、3カ月毎にモニタリングを行い、プランの見直しも行っている。毎月のミーティングでも、ケアの見直しを行っている。家族とも来苑時や電話などにより、話をしている。	本人がより良く暮らすための介護計画は、利用者本人や家族の希望、また必要に応じて主治医の意見や薬の調整指導等も取り入れ、現状に即したものになるよう取り組んでいる。担当者に於いては、毎月評価を行ない、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。	

黒髪しょうぶ苑 ～ 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎の記録を行っている。研修で学んだことを活かし、8月からは記録の取り方を変更した。まだ 不十分ではあるが、これからより良い記録を目指したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望などに寄り添える様に、個々の状況を踏まえたサービスの提供ができるように、心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りや体育祭への案内を受けるので、参加するようにしている。昨年は町内と合同の餅つきが実現しなかったため、今年の実現を目指す。日用品の購入は、近くのコスモスやセブンへ利用者と共に掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の了解のもと、苑の協力医の訪問診療を受けている方が7人、苑の協力医以外の訪問が2人いる。歯科は協力医による訪問診療、眼科などは家族の協力を仰いで通院している。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。ただ、苑の協力医が24時間対応と往診が可能ということで、1名の方が協力医をかかりつけ医としている。また、歯科についても協力医の訪問診療が可能である。認知症の専門医を受診している利用者が1名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化時には看護師に報告して、判断を仰いでいる。他スタッフに申し送りが必要時には、連絡ノートに記入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	食事形態・排泄等の情報を交換している。見舞時には、看護師から情報を得、入退院時には相談員にも面会して連携が取れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明をしている。最近、食事量が減った利用者に対し、主治医の意見を聞き入れながら、家族と終末期へ向けての話し合いを持った。	現在まで、看取りの実績はない。ただ事業所としては最後まで係わり続けたいという目標を持っており、契約時に看取り指針の説明は行っている。また最近、具体的な話しも出て来ているとのことで、家族との話し合いも持たれたようである。	看取り支援には、主治医の協力体制、家族の理解、職員のスキルのどれ一つが掛けてもうまく行かないと思います。しっかり準備をして、しょうぶ苑モデルを構築してほしいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には看護師が中心となり、主治医への連絡・指示を受けている。全職員が落ち着いて対応出来るように勉強会を続ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、定期的に行っている。8月には職員と一部の利用者で夜間を想定した避難訓練を行った。11月には、消防署立ち会いのもと、全員参加で行う予定である。災害時には当苑を避難場所として開放する事になっている。今年度中には、水・食品・簡易トイレを備蓄する予定である。	避難訓練は、年に2回を予定している。うち1回は夜間を想定し、また1回は、消防署指導のものを行っている。今のところ、地域住民の訓練参加はないが、町内には自主防災クラブ立ち上げの話もあるようで、今後は地域との協力体制づくりが、より進むものと思われる。	自主防災クラブへの参加は予定されていますが、当面の課題としては、運営推進会議等を通じて、メンバーの訓練参加を実現してはいかげでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄・入浴介助時にはプライバシーの確保が徹底出来るようにしている。言葉かけはややもすると馴れ馴れしくなる事があるので、スタッフ同士で注意をし合える様に心がけている	法人には、接遇に関する委員会が設けられており、日々研鑽の場となっている。人生の先輩に対して、失礼のない言葉使いや敬意を持った接し方が出来ているか、具体的には、トイレや入浴時の対応について、利用者の気持ちになって支援できているかを振り返るようにしている。スタッフ同士で注意し合うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも「どうされますか？」と尋ねるようにしている。自己決定が難しい方には「○○で良いですか？」と尋ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた業務の変更も多々ある。外出時等には、無理強いすることなく、本人の気持ちを優先している。		

黒髪しょうぶ苑 ~ 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪・毛染めを訪問美容に依頼している。整髪や更衣を介助し、いつも身だしなみが整うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食が細い方にはワンプレートに盛る等の工夫をしている。まずは、自分のペースで食べて頂くが、途中より介助する方もいる。配膳や皿洗いは、可能な方をお願いしている。	食事前には、声を出して口を大きく動かす、健口体操を行っている。食の細い利用者には、盛り付けを工夫したり、また飲み込みに課題のある利用者には、刻み食やミキサー食を取り入れ、支援している。調理については、まとめて担当者が行っており、利用者の参加はない。体調がいい方には、下膳やおやつの皿洗いは、お願いしているとの事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の記録により把握している。食事量が少ない方には、栄養補助食品を購入して補給している。又、刻み食やミキサー食への変更により安全に摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが困難な方に、毎食後支援を行っている。口臭がある方には洗剤を購入している。訪問歯科を利用して、口腔内の保清に勤めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を行っている。パターンが掴みにくい方はこまめにトイレ誘導を行っている。夜間は負担が大きい方はベッド上でオムツの交換を行っている。	利用者一人一人の排泄状況は、チェックシートにより管理している。大半の利用者は、自分でトイレに行かれるが、数人の方が落ち着きがなくなる・立ち上がるなどを、合図としてトイレでの排泄を支援している。また夜間は、オムツの利用者もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎日のDVD体操や散歩で運動の機会を設けている。加齢により便秘がちな方には、主治医より薬を処方してもらい、観察に努めている。乳酸飲料を定期的に購入している方がいる。		



黒髪しょうぶ苑 ～ 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回の入浴を予定しているが、本人の訴えで変更もしている。一人ひとりのタイミングを見はかかって入浴を勧めている。冬場は入浴剤を使用して温まっている。	週3回の入浴を予定している。利用者のその日の体調や気分などを考慮した上で支援している。入浴時間は、10:30～11:30を予定している。個浴支援を行っており、お湯は利用者一人一人に入れ替えている。また、足ふきマットも一人一人取り替えている。日本の文化である、しょうぶ湯やゆず湯の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きな所で過ごして頂いている。10時と15時のお茶タイムには、全員に声掛けを行い、一同が介する時間も設けているが、強制はしていない。居室に居られる方には、随時見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングでの周知徹底を図る。誤薬があったときには、部署でのミーティングと苑長を交えた話し合いを設け、スタッフ全員が事の重大性を再認識した。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に行っている。生け花、散歩、洗濯物たたみなど。又、昔ピンポンをやっていたとの話から、卓上で簡易的な卓球台を作ると、力を発揮する方がいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節的な外出(花見、紅葉)を取り入れ、年に数度の外出を実施している。個別に華展へ出かけた事がある。今後も全体での外出には無理が生じるために、個別の希望に添った外出を取り入れたい。鶴屋へ行きたいと言われる方の要望に添いたいと考えている。	3月の梅の花、10月のコスモス、11月の銀杏見学というように、季節を肌で感じてもらえるよう、年間を通して外出支援を行っている。また、外食も好評との事で、利用者のリクエストで年に数回計画している。今後は個別希望に沿った、外出支援に力を入れたいと話されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、家族の了解の上で、自分でお金を所持している方はいない。必要品は職員と一緒に買い物に出かけて購入している。夏祭りや外出時には職員が付き添いの元、希望品の購入をしている。(一人だけ、自分でお金を持ちたいと希望される方があり家族と相談の上、5千円程もっておられるが、使われることは無い。		

黒髪しょうぶ苑 ～ 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などに電話をしたいとの申し出があれば、取り次いでいる。個人で携帯電話を持っている方には、充電や設定などの支援をしている。手紙を書いた方には投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不要なものは置かないようにしている。花を好きな方が多いので、職員が自宅から花持ってきて楽しんでもらっている。テレビの音量が大きくなりすぎたら、職員が調整をしている。	建物の配置と同時に壁面や天井にも、落ち着いた明るい色の建材が使用されており、利用者が集われる共用空間は、とても穏やかな空間となっていた。また、浴室やトイレなどの水回りも、キレイに掃除されており、臭気はどは一切感じられませんでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者全員が気が合うというのは困難なので、皆さんが気持ちよく過ごせるように、居場所作りに配慮した。食卓やソファーでの場所別け。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族が準備された家具が入っている。昔から使用されているタンスや鏡台を持ち込まれている方も居る。家具は、利用者の身体状況などを配慮して配置した。	基本的な設備は、クローゼット・洗面台・エアコンとなっており、ベッドや寝具については、入居者が使い慣れた物を持参するようになっている。その他の設備についても、使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるような支援を行っている。仏壇を持っておられる利用者も2名おられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーにして、転倒を防止している。エレベーターは使用時以外は鍵を抜いて事故を防止している。各居室に関しては、ご本人の意思を尊重している。		